

特定非営利活動法人 安曇野市体育協会 令和元年一年を振り返る

ご挨拶

NPO法人安曇野市体育協会

会長 赤羽 高明



明けましておめでとうございます。加入団体の皆様、賛助会員の皆様には本年も良い年でありますよう、心からご祈念申し上げます。

昨年十月十二日(土)に発生した台風十九号で特に千曲川沿いの下流域は甚大な被害を受けました。幸い安曇野市は特段の被害もありませんでしたが、翌日に予定していた多くの大会行事が中止されました。被害に遭われた被災地の皆様には心からお見舞い申し上げます。

さて、昨年五月一日、平成から令和に元号が改められ、体協は平成二十八年四月にNPO法人として発足、四年目を迎えました。六月十七日に開催した通常総会では任期満了に伴う役員の変更が審議され、現役員全員の再任が承認可決されました。また、総会前に行われた平成三十年年度体育功労者及

び優秀選手の表彰式では十六名の方が受賞されましたが、平成二十九年年度と比較すると奨励賞の中高生の表彰者が激減しました。

また、平成二十二年度に市民の交流を深め、スポーツの振興と市民の一体感づくりのために始まった市民スポーツ祭は、令和元年度で第十回目を迎えました。六月三十日に穂高会館で行われた開会式では、タレント・柔道家の篠原信一氏と松山三四六氏のアスリート講演会をはじめ、スポーツ体験教室、障がい者スポーツ等各種イベントが盛大に行われました。記念イベントにご協力いただいた体育協会加入団体の皆様に感謝申し上げます。

体協主催の種目別競技会には十七競技が行われ約二千五百人がそれぞれの競技に汗を流し、またスポーツ教室には九団体が二十一教室を主管し、初心者をはじめ約三千人の方が参加されました。定期的に発行される市の広報に掲載されるので、市民の皆様には興味のある教室に積極的にご参加いただけたいと思います。

令和二年になり新しい年を迎え日本中がオリンピックイヤーで沸いている中、平成二十八年に新総

合体育館建設問題が浮上して以来四年が経ち、今ようやく建設が始まろうとしています。元年度には新総合体育館の管理運営形態についての審議会も行われました。

また、二〇二七年に行われる第八十二回長野国体の総合開閉会式会場が松本平広域公園陸上競技場の決定を機に、今後、中信地区の体育協会(松本市・塩尻市・安曇野市・大町市)として個々の課題や意見交換の場を企画しており、その中で安曇野市体育協会も、より充実した信頼される組織・運営

賛助会員を募集

当協会は市民一人ひとりが年齢や体力、運動能力、目的に合わせて、スポーツにかかわることのできる環境づくり、スポーツを通じた健康づくりや生きがいづくりの機会を提供する活動を行っております。当協会の活動の趣旨にご賛同いただける賛助会員を募集しています。申し込みお問合せは当協会事務局までお願いいたします。

電話/FAX

0263-88-3516

■賛助会員の皆様へ

日頃は当協会の活動にご理解とご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。今後とも当協会

の構築を図っていききたいと思いをします。

近年、特に球技のチーム数減少等の影響により、体協加入員数も令和元年度では六千人を僅かに割り込んでしまいました。各団体やチームには尚一層、加入促進に力を入れて、活動の強化を図っていただきたいと思います。体協も未だ力不足ではありますが、皆様のご期待に添えるよう努めてまいりますので、今後とも体協事業へのご理解とご支援・ご協力をお願いいたします。

の活動に変わらぬご支援をお願い申し上げます。

- あづみ農業協同組合
- 安曇観光タクシー株式会社
- 穂高カントリー株式会社
- あづみ野カントリー株式会社
- 豊科総合開発株式会社豊科カントリー倶楽部
- 株式会社長野銀行豊科支店
- 株式会社八十二銀行豊科支店
- あづみ野テレビ株式会社
- 南安タクシー有会社
- フジプロ・エネケーション株式会社
- 株式会社オオハタスポーツ
- 株式会社市民タイムス安曇野支社
- 株式会社ワーク
- 有限会社信州保温
- 有限会社赤羽電気商会

※順不同

《卓球》

八月十八日(日)堀金総合体育館で小学生からラージボールの部まで九ブロックを開催



《ソフトボール》

五地区十二チームが参加、有明運動場で開催。参加二百十三名



《空手道》

三郷文化公園体育館で百二十五名が参加、形と組手の二部門を実施



《バスケットボール》

穂高西中学校体育館で開催、男女百九十九名が参加



第10回

令和元年度 市民スポーツ祭種目別競技会

《ゲートボール》

十月二十四日(木)堀金常念ドームに三十二名が集まって開催



《軟式野球》

九月二十九日(日)県民運動広場、堀金総合運動場で三ブロックに別けて対戦



《バドミントン》

十月六日(日)穂高総合体育館で開催、百二十四名が参加



《ゴルフ》

本年度は十月二日(水)穂高カントリークラブで開催、百三十七名が参加





《ワンバウンド心づらばぐるバレーボール》
十一月十七日(日)豊科勤労者スポーツ施設体育館



《弓道》
十月十四日(月)豊科弓道場で個人、団体の部を開催。参加者四十六名



《剣道》
十二月一日(日)三郷文化公園体育館で開催。参加者百六十一名

《柔道》
十二月一日(日)豊科武道館柔道場、参加三十五名



《フットサル》
十二月十五日(日)穂高総合体育館に百三十八名を集めて開催。一般の部とジュニアの部が行われた。



《九人制女子バレーボール》
十二月一日(日)、堀金総合体育館、堀金小学校体育館で開催。百六十名が参加

スポ少運動適正テスト

1月18日(土)堀金総合体育館で実施。小学4・5・6年生が頑張りました。



スポ少 中信競技別交流大会

《バドミントン競技》



普通救命講習会開催

元年十一月九日(土)午後一時より、堀金公民館講堂において豊科消防署職員三名を講師に、安曇野市体協生涯サークル連合主催で開催されました。生涯サークル連合所属団体の皆さん、運動種目別団体、スポーツ少年団所属単位団の皆さん二十九名が参加。本年度は三時間の正式な講習ということから、受講者全員が普通救命講習終了証をいただきました。



スポーツ少年団指導者制度の変更説明会



元年十一月二十六日(火)午後七時より堀金総合体育館ミーティングルームにおいて指導者制度の改定に伴う説明会を開催しました。正確な説明を受けたという指導者の希望が強く、県スポーツ協会担当主事に出向いていただき説明会を持ちました。

指導者制度の変更にはそれなりの背景があるといえます。ここでは背景の一つ、「スポーツ指導における暴力根絶に向けて」下村博文文部科学相のメッセージの要旨の抜粋を紹介しま

す。

『日本スポーツの良さは、チームワークであり自他共栄の心です。しかし、今般、柔道女子日本代表チームをはじめ、スポーツ指導において暴力を行使する事案が明るみに出ました。私は、今般の事態を日本スポーツ史上最大の危機と捉えています。私はこうした問題が選手の間で立場によって速やかに解決できるように「スポーツ指導から暴力を一掃する」という基本原則に立ち戻り、スポーツ界を挙げて取り組む必要があると考えます。スポーツ指導者が暴力にたよるのではなく、コーチング技術やスポーツ医・科学に立脚して後進をしっかりと指導できる能力を体得していくために、スポーツ指導者の養成、研修の在り方を改善することが大切だと考えます。このような様々な仕組みをスポーツ界一丸となって早急に整えることで、『新しい時代に相応しいスポーツの指導法』が確立されるよう、全力を尽くす所存です。』

なお、安曇野市体育協会、安曇野市スポーツ少年団では安曇野市スポーツ推進担当とともに指導者講習会等を開催し、指導者がいつまでも学び続けることのできる環境を整えるべく、努力を重ねていかななくてはいいかと考えています。

スポーツ少年団活動を振り返る



安曇野市スポ少本部長
加々美浩一

安曇野市が誕生してから十五年が経過し、安曇野市スポーツ少年団は発足して十四年が経過した。発足より今日に至るまで、多くの団員、指導者、育成母集団の皆様を支えられ、県内トップクラスの規模で活動してきました。

これまで、市内各地での単位団を主体に活動を続けてきたが、我々スポーツ少年団を取り巻く環境は、この間に大きく変化してきた。それは人口減少(高齢化・少子化)や生活様式の変化などであり、スポーツに対する需要の多様化でもある。

安曇野市スポーツ少年団は千八百余名の団員を擁してきたが、近年は毎年百名近くの団員減少となっている。また、市スポーツ少年団としての活動(式典、交流会、体力測定など)への関りの希薄化などもみられるようになった。そこで、スポーツ少年団の在り方について、もう一度考えてみたい。

スポーツ少年団は、スポーツを通して心身ともに健全で明る

く元気な子どもを地域で育てることを基本理念としている。そのため、この理念を学び理解した指導者と保護者を主体とした育成母集団によって支えられている。団員のスポーツ活動の背景には、「仲間とのふれあい」「体力の向上」「対外試合の経験」「勝利への願望」など、多くの欲求がある。その中で団員たちはスポーツの持つ楽しさや苦しさなど、様々な状況を体験し、活動に携わる指導者と育成母集団と共に育つのである。

そこで、安曇野市スポーツ少年団が、この地域の青少年育成にとつて、将来にわたり必要な存在で有り続けるためには、全ての単位団指導者と育成母集団の皆様とで、以下三点の理念を共有し共に歩んでいきたい。

- ①一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する。
- ②スポーツを通じて青少年の心と体を育てる。
- ③スポーツで人をつなぎ、地域づくりに貢献する。